

# 第 3 学年

総合的な学習の時間

## しぜんとともにくらそう(1)

平成 28 年 9 月 14 日(水) 第5校時

杉並区立西田小学校 第 3 学年 4 組 27 名

授業者 /

### 単元目標

- 身近な生き物に着目し、育てたり調べたりすることを通して、昆虫に興味をもち、進んで関わる  
ことができる。
- 昆虫の生息に適した環境について考え、自ら計画を立て、持続可能な西田の環境づくりに取  
り組むことができる。

### 児童の実態

本単元では、“学習計画の立て方”や“計画の見直し”、“課題解決までの学習過程”などの経験  
を積ませることで、児童が主体的に学習を進めていく能力を養いたいと考えている。

単元の前段では、モンシロチョウやトンボと児童が興味を持つ昆虫の育ち方を比べることを課題と  
して学習を進め、昆虫の育ち方や生態は多様であることに気がついた。「選んだ昆虫の育ち方を調  
べて比較する」という学習課題を解決するまでの計画の立て方や学習の進め方について指導を行  
い、児童はそれらの経験を積む機会となった。

学習を進めていく中で、自ら計画を立て、状況に応じて計画を立て直しながら学習を進める児童  
も見られた。その一方で、自分から学習を進めることに難しさを抱える児童もいた。特に、校内にあ  
まり生息していない昆虫を選んだ児童は、実際に昆虫を捕まえて観察することだけに固執してしま  
い、他の手段(図鑑やインターネット等)に目がいかず、戸惑っている様子が見られた。

単元の後段では、前段で経験した学習計画の立て方や進め方の学習過程を生かして、課題解  
決に必要なことを自ら見出し、計画を立てて学習を進めていく力を伸ばしていきたい。

### 単元観

児童が成長する過程で、持続可能な社会づくりに参画できる力を身につけることが大切である。  
第3学年は「環境」というテーマで総合的な学習の時間を計画し、その中で第3学年の児童にとって  
身近な存在である「昆虫」を媒介にし、「自然環境のあるべき未来像を予想・予測・期待し、それを他  
者と共有しながら物事を計画する力」を高めることに焦点を当てた。そして、「探究的な学習」を繰  
返して行うことを通して、社会・自然が様々な要素から構成されていることを知り、身近な事象・現象  
を多面的に捉える力を育てたいと考え、本単元を設定した。

本単元は、理科「こん虫をそだてよう」、「動物のすみかをしらべよう」(大日本図書)と関連させた  
学習である。1 つ目の単元では、「昆虫の育ち方には一定の順序があり、成虫の体は頭、胸及び腹  
からできていること」についてモンシロチョウやトンボの観察を通して学習したが、その他の昆虫の育  
ち方や生態についても調べることで、昆虫の育ち方や生態は多様であるということに気付くことがで

きると考えた。2つ目の単元では、「生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること」を学習したこと  
で、昆虫が住みやすい環境について、観点を明確化した上で自ら計画し、環境整備に向けて行動でき  
ると考えた。

### 評価規準 ( E S D )

学習過程	ESDで育てたい力	重視する能力と態度 [ ①ステップ1 ②ステップ2 ]
学びに 火を つける ▼	進んで参加する態度	① モンシロチョウと育ち方を比べたい昆虫を決め、学習の進め方 や計画の立て方を理解することができる。
	未来像を予想して 計画を立てる力	② すぎなみ環境ネットワークの方の話を聞いたり、ヤンマお誘い セットを作ったりすることで、西田の環境が昆虫にとって住みよ い環境か考えることができる。
調べる ▼	未来像を予想して 計画を立てる力	① ヤゴ救出大作戦に取り組み、学校のプールが、ヤゴやトンボに とって住みよい環境になっているか考えることができる。
	多面的・総合的に 考える力	② 自分が選んだ昆虫の育ち方について、実物や図鑑、パソコン など、必要に応じて調べる手段を変え、学習をすすめることが できる。
まとめる ▼	つながりを尊重する 態度	① 自分が呼びたい昆虫にとっての住みよい環境を、今まで調べ てきた内容を基にして考えることができる。
	他者と協力する態度	② 自分が選んだ昆虫にとってよりよい環境を作るための計画を立て、 環境を整えることができる。
伝え合う	多面的・総合的に 考える力	① 調べた昆虫の育ち方を学習シートや模造紙にまとめ、昆虫の 育ち方や生態について理解することができる。
	コミュニケーションを 行う力	① 実践したことを発表し合い、多様な実践があることを知る。 ② 自分たちの実践が分かりやすく伝わるように、発表の仕方を工夫 して、ESD報告会で発表することができる。
		① 友達の発表を聞いて、昆虫の育ち方や生態はそれぞれ違うこ とに気付くことができる。
		① 自分たちの実践を、「うまくいったこと」と「うまくいかなかったこ と」に分けて発表し、具体的な実践が分かりやすく伝わるように 工夫して発表することができる。

# 本時の授業デザイン

## 本時の目標

昆虫にとってよい環境にするために必要な観点を話し合い、理想の環境を考える。

## 評価

- 昆虫の生態を基にして、昆虫にとってよい環境を考えることができたか。
- 課題解決のために必要なことを見いだし、次時の学習の見通しを持つことができたか。

## 板書計画 / 学習シート計画 / 留意点

### しぜんとともにくらそう(1)

おたがいの考えを出し合って、  
絵をかんせいさせよう。

イ

カブトムシ

くぬぎの木 : せい虫の食べ物

ふよう土 : よう虫の食べ物

コオロギ

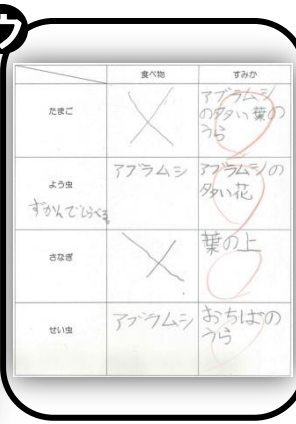
やわらかい土: たまごをうむ場所

葉っぱ : よう虫の食べ物

ア



ウ



## 指導上の留意点

ア

### 自分の考えを個々に絵で表しておく。

理科で学習した昆虫のすみかに必要な観点をもとに個々に絵を描くことで、自分の考えをもたせる。

イ

### 理想の環境を考えるときの観点を明確にする。

昆虫にとってよい環境に必要な観点を話し合い、チェックシートを配布することで、絵を見直すことができるようにする。

ウ

### 次時の学習を確認する。

本時で確認できなかった観点を、チェックシートの記入状況から把握し、次時の学習内容の見通しをもたせる。

## 授業を見る視点

### 進んで参加する態度

理想の環境を実現させるために必要な事柄を考え、絵の作成に対して進んで参加しているか。

### 多面的、総合的に考える力

理想の環境に必要な事柄を把握し、環境を考えるときに必要な観点を考え、検討しているか。

### 未来像を予測して計画を立てる力

本時の学習内容を把握し、次時の学習の見通しを持っているか。

## 学習の流れ

①  
導入

### それぞれが考えた環境を共有する。

◇ 各グループ内で、友達が描いた絵を回しながら見る。必要ならば、適宜質問をし合う。

T: 自分とは違う考えを持っていた人もいたと思います。みんなで意見を出し合って、昆虫にとってよい環境を考えてみましょう。

お互いの考えを出し合って、絵を完成させよう。

②  
展開

### 理想の環境を考え、グループで1つの絵に表わす。

T: 選んだ昆虫にとってよい環境の絵を、グループで1つ描きましょう。

◇ グループ内で、お互いに意見を出しながら絵を描き進める。

～途中経過の確認～

T: グループで描いている絵には、どんなことを描きましたか。

◇ 絵に描かれている内容を、グループごとに発表する。

C: セミがたまごをうめるように、木を描きました。

C: ホタルの幼虫がすめるように、川を描きました。

T: ということは、絵を完成させるためには、考えなければいけないことがいくつかありますね。理科の学習を思い出してみましょう。(学習シートの提示)

◇ 学習シートを使い、観点ごとに条件が満たされているか確認し、適宜修正する。

◇ 絵を描き進める中で、調べなければ分からないことがあれば、図鑑やタブレット PC を用いて調べ、絵に描き足す。

◇ 絵が完成したグループは、昆虫の一生(掲示物)と照らし合わせ、確認する。

③  
終末

### 今日の学習を振り返り、次時の学習の見通しを持つ。

T: 次の時間では、どんな学習をしますか。

C: カマキリの幼虫の食べ物が調べられなかったので、調べようと思います。

C: ナナホシテントウにとってよい環境は分かったので、その環境が学校にあるのか調べようと思います。

